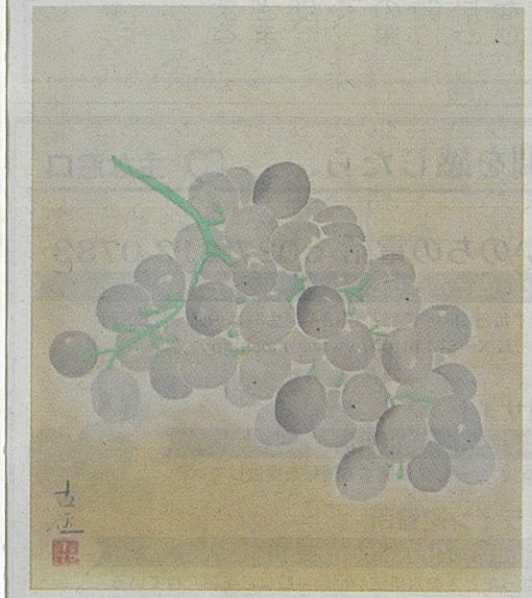


「ぶどう」

1935～45年ごろ、紙本彩色
27・2㌢×24・2㌢（大川美術館蔵）

小林古径（1883～1957年）

淡い地色の中に、ブドウがただ一房。葉も籠も皿も描かれず、画面には広々とした余白が残されています。左上から斜めに伸びる薄緑の軸と、そこからたわわに連なる丸い実。粒は一つ一つ異なる方向を向き、房全体にゆるやかなリズムを生み出しています。

画面の中心からわずかにずらして配された一房は、静かなたたずまいの中に、かすかな動きを感じさせます。一房のブドウを描いた小さな画面には、秋の澄んだ空気が満ちているようです。実りの季節は、同時に時が移ろっていく季節でもあります。長く続いた夏の暑さも、ひと息つくころでしょうか。息を整えて次の季節を迎える、そんな穏やかな時間の中で眺めてみたい一点です。

本作は「秋の彩り―日本画コレクション」で10月10日から展示いたします。

（小此木）

《名画の扉》 大川美術館日本画コレクションから